



「研究を将来の遠隔治療に役立てたい」と話す滝沢さん

予防医療と遠隔地診療の研究に力を入れる

滝沢 清美さん (48)

前橋市総社町

代表を務めるNPO法人

「地域診療情報連携協議会」で、地域住民対象の生活習慣病予防の勉強会を開いていることが認められ、地域福祉に貢献する研究者に贈られる大同生命厚生事業団の助成を受けた。「研究に関心を寄せてもらってうれしかった」

勉強会では地元の医師とともに離れた場所でも診察が可能か、インターネットやテレビ電話を使った検証もしている。自身は昨年四月から群馬

## I T 駆使し医療に尽力

大学医学部の研究生として、情報医学を学ぶなど研究に余念がない。

「IT技術を駆使し、住民が自分の健康情報を気軽に引き出したり、情報を元に、患者に合ったより良い医療が受けられる環境を整えたい」と力を込める。

十三歳の時、交通事故で生死の境をさまよった。その時から医療に携わるのが夢だった。現在、得意のコンピュータ技術を生かし、医師の片腕となって活動できていることに喜びを感じている。「今後は、過疎地の医師不足解消に尽力したい」。それが今の夢だ。